

TOTAL ECONOMIC IMPACT（総経済効果）

Google Workspace With Gemini の Total Economic Impact™

FORRESTER TOTAL ECONOMIC IMPACT™ 調査（GOOGLE 委託）2026 年 2 月

WORKSPACE で実現する経費削減とビジネス上の利益

FORRESTER®

目次

概要

Google Workspace のカスタマージャーニー

利益分析

コストの分析

財務概要

TEI のフレームワークと調査手法

付録

概要

組織は、業務をより簡単かつ効果的に遂行する手段への期待が高まっているため、従業員の働き方や協働の仕方、情報へのアクセス方法を見直しています。同時に、AI の急速な進化は、組織が責任を持って大規模に AI を導入する最善の方法を模索する中で、新たな機会と課題をもたらしています。このような環境下で、組織は業務を簡素化し、従業員の生産性を向上させ、最新の AI を活用した働き方を支援できるソリューションを評価しています。¹

Google Workspace は、統合されたクラウドをネイティブの生産性スイートであり、あらゆる役割の従業員が効率的に協働し、容易にコミュニケーションを取り、日々をの業務をより効果的に遂行できるようにします。その高度な AI 機能（Gemini や NotebookLM を含む）は、をのを Gmail、Drive、Meet、Docs、Sheets、Slides といった使い慣れたアプリケーションに組み込まれており、生産性を向上させると同時に、従業員が業務の質を高め、より影響力の大きいタスクに取り組むことを可能にします。Workspace のエンタープライズをレベルの高いセキュリティとデータプライバシー保護により、組織は安全かつ迅速に AI を全従業員に展開し、業務効率を向上させ、従業員の能力を高め、を長期的なイノベーションの基盤を築くことができます。

Google は Forrester Consulting に Total Economic Impact™（TEI）調査を依頼し、企業が Google Workspace を導入することで得られる可能性のある投資収益率（ROI）を検証しました。² 本調査の目的は、Workspace によって企業にもたらされる可能性のある経済的影響を評価するためのフレームワークを読者に提供することです。

416%

投資対効果（ROI）

\$1.237 億

正味現在価値（NPV）

「一言で言えば、（Workspace の AI は）変革的です。最も基本的なレベルで利用している人でさえ、価値を実感しています。導入が進むに伴って、生産性とスキル向上の効果は桁外れのものになります」

ワークプレイステクノロジー担当シニアマネージャー（テクノロジー）

Forrester は、この投資に伴う利益、コスト、リスクについてさらに理解を深めるために、Workspace の利用経験を持つ 5 つの組織の 6 人の意思決定者にインタビュー調査を実施しました。本調査の目的を遂行するため、Forrester はインタビュー参加者の回答を集計し、結果を単一のモデル組織としてまとめました。従業員数 20,000 人の組織です。

Workspace を導入する前、インタビュー参加者の組織は従来の生産性向上ソリューションに依存しており、従業員がツール間の連携の調整、バージョン管理、サイロ化されたシステムに保存された情報へのアクセスなど、成果への影響が少ない業務に過剰に時間を費やすことが頻繁にありました。インタビュー参加者によると、所属している組織では協働や日々の業務を容易にし、従業員が創造性の発揮、意思決定、より影響の大きい業務に集中できるよう、統合型の作業環境を求めていたとしています。インタビュー参加者の組織にとって、AI を安全かつスケーラブルでコスト効率の高い方法で導入することは、従業員の能力を引き出し、長期的な成功に向けた基盤を築く上で重要でした。

Workspace の導入後、インタビュー参加者の組織では、生産性や協働が向上しただけでなく、安全な AI を活用した働き方を導入する能力にも大幅な改善が見られました。この投資から得られた主な成果としては、より強固なセキュリティと IT 効率の向上、Gemini による従業員の生産性および AI 利用の増加、より効果的な協働とワークフローの効率化、NotebookLM や翻訳機能を活用した高度な AI 活用事例が挙げられ、これにより大幅な時間節約と従業員の定着につながりました。

「(Google Workspace のコストは) 非常に競争力があります。価値の観点から言えば、Google から得られるものは、他社が提供するものと比べて圧倒的だといえます」

ワークプレイステクノロジー担当シニアマネージャー（テクノロジー）

主な調査結果

定量的利益 モデル組織の3年間のリスク調整後の現在価値（PV）で示す定量的利益は、以下の通りです。

- **平均的なユーザーが週に3時間（年間150時間）を節約できることで、GeminiのAI搭載アシスタンスは年間合計240万時間の時間節約と業務品質の向上をもたらし、7,610万ドルの経済効果を生み出します。** Geminiはモデル組織のAI戦略の中核に位置し、従業員の効率性、能力、業務成果の質に好影響を与えています。利用範囲はほぼすべての職種や職能に及び、モデル組織では従業員の80%が定期的に Gemini を使用しています。GeminiはGoogle Workspaceに直接組み込まれており、使い慣れたツール内で統合された体験を提供します。調査や要約、文章の作成・改善、翻訳、会議の準備、法律文書・技術文書の理解、データ概要の作成、マーケティング・営業コンテンツの作成、コーディングやその他の技術的業務など、幅広く活用されています。Geminiはまた、Gemsを通じてワークフロー全体を変革します。Gemsは、営業、業務、チーム固有のユースケースなど、従業員の生産性を高める特定のカスタマイズされたAIエキスパートとして機能します。効率の向上に加えて、Geminiはアシスタントとして、モデル組織の従業員が業務の質を高め、より複雑なタスクに取り組み、自信と創造性を持って業務を遂行できるよう支援します。

「Geminiによって、当社の従業員はより優れた成果を出せるようになりました。ユーザーの93%が業務のスピードアップを実感し、89%が業務の質が向上したと報告しています。また、Geminiは創造性も押し上げ、87%が創造性やアイデア創出に Gemini を活用しています」

AI導入責任者（金融サービス）

- **NotebookLMや翻訳を活用したAIユースケースにより、年間最大50万時間の業務時間の節約と1,200件の雇用維持が可能となり、3,420万ドルの価値をもたらしています。** モデル組織のチーム（例：研究開発、法務、財務、マーケティング、オペレーションなど、上級職や知識集約型の役割を担うチームなど）は、NotebookLMを活用して、信頼できる単一の環境内で複雑な情報を正確かつ迅速に把握して対応しています。こういったユーザーは、調査、分析、コンテンツの統合・生成を迅速化することで、平均週10時間の時間節約を実現しています。さらに、Workspace全体に組み込まれたリアルタイム翻訳やその他のAI搭載ツールは、モデル組織がグローバルに成長・運営していく中で、既存の従業員のスキル向上を支援し、人材の定着を支えます。これにより本来なら置き換えるはずだった従業員の維持が可能になります。

「従業員 1,200 人を抱える企業を買収しましたが、Gemini と Google Workspace の翻訳機能のおかげで、組織のノウハウを持った人材を定着させることができました。人材を置き換える必要がなかったため、非常に大きな ROI が得られています。スピード翻訳機能を利用したり、Google Meet のリアルタイム翻訳を活用したりすることで、あらゆる言語の壁を克服しています。これにより、グローバル企業としての事業運営が格段に容易になり、（新しい企業を買収する際にも）既存の人材を活用できるようになります」

デジタルエクスペリエンス担当副社長（金融サービス）

- セキュリティツールの統合によるコスト削減、デバイス構成時間の 90% 削減、サポートチケット対応および継続的な管理工数の 50% 削減により、セキュリティと IT 効率が向上し、650 万ドルを節約しました。Google Workspace は、モデル組織が従業員全体に AI 搭載ツールを大規模かつ安全に導入するために必要なエンタープライズレベルのセキュリティ、データプライバシー保護、および組織のデータの管理機能を提供します。これらのセキュリティおよびプライバシー保護がすべての Workspace アプリケーションおよび組み込み AI 機能に適用されているため、モデル組織は承認、展開、管理、利用拡大をより容易に行えるとともに、組織が被りうるリスクやシャドウ IT を軽減します。同時に、Workspace のクラウドネイティブアーキテクチャと統合セキュリティモデルは、全体的なセキュリティ体制の強化を支援します。さらに、モデル組織はコスト削減と効率向上を実現しています。これには、Workspace 導入により不要になったセキュリティツールの廃止や、デバイス構成、サポートチケット対応、継続的な管理にかかる時間の削減が含まれます。

「(Google が独自の AI を保有し、完全に統合されたスタックとして提供していることは、) 当社にとって大きな価値を生み出しています。Google の AI の提供方法は、他社とは異なり、データの管理権限を与えてくれます。この違いのおかげで、はるかに迅速な導入が可能になり、当社に非常に大きな価値をもたらしました。これは常識を打ち破るものでした」

デジタルエクスペリエンス担当副社長（金融サービス）

- 協働とワークフローの効率が向上し、年間 964,000 時間を節約し、合計 3,070 万ドルの価値を生み出しました。単一のクラウドネイティブプラットフォームの Google Workspace により、モデル組織の従業員は Gmail、Drive、Meet、Chat、Docs、Sheets、Slides などの緊密に統合されたアプリケーションを使用した、リアルタイムのコミュニケーションと協働が可能になります。Google Workspace は、オフィス勤務の従業員だけでなく現場勤務の従業員にとっても迅速なコミュニケーションと容易な情報共有をサポートし、モデル組織の協働作業にかかる時間を 30% 削減します。これらの効率向上は、他の Workspace アプリと併用した AppSheet によるエンドツーエンドのワークフローオーケストレーションにも及び、AppSheet は従来の手法と比較して平均 80% のアプリ開発時間を削減します。

「(Gemini は) 人間に取って代わるものではなく、従業員に生産性を高め、業務の質を向上させる力を与えるものです」

AI 製品担当ディレクター（電気通信）

- **従来システムの廃止によるコスト削減。** Google Workspace は、モデル組織の全従業員を対象としたエンタープライズ全体の生産性・協働スイートとして機能しており、Gemini と NotebookLM が追加費用なく含まれています。その結果、モデル組織は従来の生産性ツールを廃止できるようになり、直接的なコスト削減を実現しています。

「独自のモデルを作成・保有・維持している Google は、それだけで競合他社を大きく引き離す優位な地位を築き上げています。これにより、同社はより迅速に戦略を転換し、柔軟に対応することが可能になります。Google はモデルを保有しており、開発予定のユースケースに合わせてモデルを直接ファインチューニングできるという、他に類を見ない立場にあります。他社よりも圧倒的に迅速に動くことができるのです」

協働テクノロジー担当マネージャー（テクノロジー）

非定量的利益 モデル組織に価値をもたらすが、本調査では定量化されていない利益には、以下のものが含まれます。

- **従業員の自信、創造性、およびより影響力の大きい業務に取り組む意欲の向上。** Google Workspace、特に各アプリケーションに組み込まれた Gemini を活用することで、モデル組織の従業員は既存の業務をより効率的かつ効果的に完了できるだけでなく、より野心的で未知の業務にも積極的に取り組めるようになります。
- **組織の俊敏性とイノベーションの向上。** Google Workspace は、モデル組織が新しい AI を活用した働き方を試行し、変化するビジネスニーズに迅速に適応し、継続的なイノベーションを支援できる統合プラットフォームを提供します。
- **急速に進化する環境における AI 技術のリーダーシップ。** モデル組織は、Google の急速な AI イノベーションのペースと継続的な投資が、急速に変化する市場の要求と十分に合致していると評価しています。Google Workspace の現状の強みと継続的な改善により、技術的停滞のリスクが軽減されることから、モデル組織のリーダーは、Workspace が新たに登場する AI 機能とともに進化し続けられると確信しています。

「当社が高く評価する価値は、Google が AI、アプリケーション、インフラの点でエンドツーエンドのソリューションを提供している点です。また、Google はオープンなので、他のソリューションを利用したい場合でも、Google のインフラ内に統合することが可能です。Google のオープン性により、当社は自信を持って戦略を調整できます」

AI 製品担当ディレクター（電気通信）

コスト モデル組織の 3 年間のリスク調整後の PV コストには以下が含まれます。

- **サブスクリプション費用。** モデル組織は、Workspace を利用するためにサブスクリプション費用を Google に支払います。ユーザー数や顧客固有の価格設定などの要因によって変化しますが、モデル組織における 3 年間の合計は 1,930 万ドルです。
- **社内人件費および移行コスト。** モデル組織は、Workspace の導入および利用に関連して社内人件費を負担します。これには、専任の IT 担当者が実装、移行、継続的な管理に費やす時間や、より広範な従業員が Workspace およびその AI 機能の学習や習熟に費やす時間が含まれます。これらの費用は、モデル組織において 3 年間で合計 1,040 万ドルとなります。

インタビュー調査と財務分析の結果、モデル組織は 3 年間で 1 億 5,340 万ドルの利益を計上する一方、費用は 2,970 万ドルであり、正味現在価値（NPV）は 1 億 2,370 万ドル、投資収益率（ROI）は 416% と算出されます。

「Workspace のアプリは常に、しかも非常に速いペースで改善されています。市場のリーダーである Google の現在の取り組みと将来の方向性については、非常に安心感があります」

AI 導入責任者（金融サービス）

主な統計データ

416%

投資対効果（ROI）

\$1.534 億

利益の現在価値（PV）

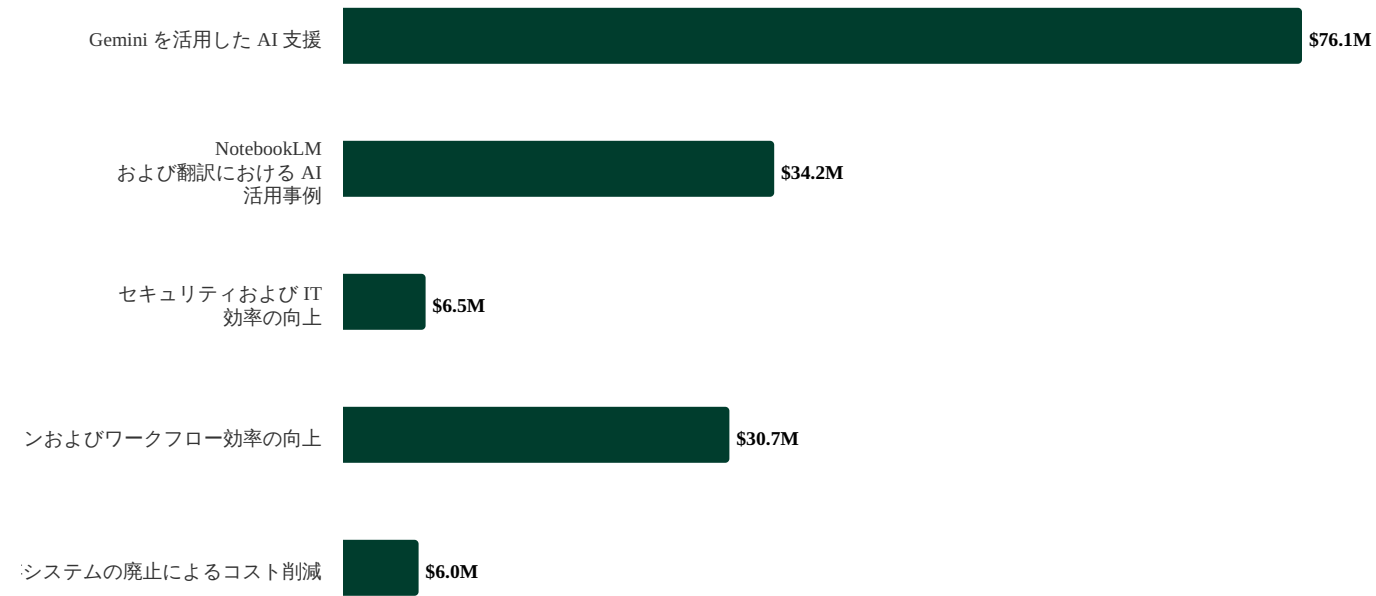
\$1.237 億

正味現在価値（NPV）

6 か月未満

投資回収期間

利益（3年間）



Google Workspace のカスタマージャーニー

Workspace への投資を推進した要因

インタビュー調査

役職	業界	従業員数	売上高
インフラ担当シニアマネージャー	消費財	35,000	70 億ドル
デジタルエクスペリエンス担当副社長	金融サービス	25,000	50 億ドル
ワークプレイステクノロジー担当シニアマネージャー	テクノロジー	25,000	100 億ドル
協働テクノロジー担当マネージャー	テクノロジー	25,000	100 億ドル
AI 製品担当ディレクター	電気通信	17,000	30 億ドル
AI 導入責任者	金融サービス	12,000	30 億ドル

主な課題

Google Workspace の導入前、インタビュー参加者の組織では、従来のコラボレーションスイートに加え、必要に応じて単体のソリューションを利用していました。インタビュー参加者は、以前の環境で以下の共通の課題に直面していたと述べています。

- 協働の非効率性や、成果の少ない業務に過剰な時間を費やしていたこと。** インタビュー参加者は一貫して、Workspace を選んだ理由として、断片化された従来環境よりも効果的な協働をサポートできる点を挙げています。従来環境では協働作業が不必要に煩雑になっていたからです。以前の環境では、バージョン管理、複数のツール間での調整、サイロ化されたシステムに保存された情報へのアクセスなど、従業員は成果が限られた業務に多くの時間を費やしていました。金融サービス企業のデジタルエクスペリエンス担当副社長は次のように説明しています。「私たちは、同じドキュメント内、同じ会議でより良く協働できるという理由で Workspace を選びました。サイロを減らせば減らすほど、私たちの働き方は改善されます」
- 従業員がより影響力の大きい業務に取り組めるようにする、AI を活用したツールの必要性。** インタビュー参加者によると、従業員は、より効果的に業務を行える、使い慣れた直感的なツールをますます望むようになってきているとしています。各組織は、従業員が日々の業務をより容易に完了させ、分析、創造性、意思決定に充てる時間を増やすことができる、AI 駆動のツールを求めています。

テクノロジー企業のワークプレイステクノロジー担当シニアマネージャーは次のように述べています。「Workspace の AI は、どんなスキルレベルでも利用可能です利用を始めたばかりの段階でも価値を実感でき、その後もさらに活用できるようになります」金融サービス企業の AI 導入責任者は次のように付け加えています。「私たちは、協働のためだけでなく（業務の改善）ができる点でも Workspace を選びました」

- AI を安全かつ長期的に導入する方法に関する不確実性。** インタビュー参加者の組織は、AI を迅速に導入することに注力する一方で、市場の変化に伴い、AI が安全で適切に管理され、継続的に改善できる状態を維持することも重視していました。複数のインタビュー参加者は、この決定を「勝ち馬に賭けるようなもの」と例え、Google の迅速な改善ペース、明確なロードマップ、エンタープライズ向けのセキュリティおよびプライバシー管理、統合型のエンドツーエンドソリューションとしての優位性を高く評価しました。金融サービス企業の AI 導入責任者は次のように付け加えています。「Google は非常に迅速に動き、改善できることを示しています。まさに市場のリーダーです」

インタビュー参加者は、以前の環境において、信頼性の問題や潜在的なセキュリティの脆弱性といった技術的な課題があった点も指摘しています。こうした懸念は、組織内で AI 活用を拡大する前に、より安定的で安全な基盤を整える必要であることを改めて示したと言えます。

- **大規模に AI を導入する際のコストと複雑さ。** インタビュー参加者は、企業全体に AI を拡大運用するにはコストや調達に関する諸検討事項があり、ツールのライセンス取得、統合、管理が求められるため、運用上の複雑さが生じる可能性があるとして述べています。複数のインタビュー参加者は、Gemini と NotebookLM が Workspace のサブスクリプションに含まれていることで、追加のライセンス費用や複雑さを伴わずに、企業全体で AI を導入できる点を強調しています。

「Gemini と NotebookLM がバンドルされ、Workspace に組み込まれているという点だけでも、Workspace に移行するのに十分正当な理由になっています。追加投資なくプロセスの自動化を支援してくれます」

AI 製品担当ディレクター（電気通信）

モデル組織

Forrester はインタビュー結果を基に、TEI フレームワーク、モデル組織、ROI 分析を作成し、財務的影響を受ける業務領域を具体的に明示しました。モデル組織とは、インタビュー参加者が所属する各組織の特徴を統合し、1 つの代表的組織として構成したものです。次のセクションでは、このモデル組織を用いた財務分析の総合結果を示します。このモデル組織には以下の特徴があります。

- **モデル組織の概要** モデル組織は、従業員 2 万人、年間売上 40 億ドルのグローバル企業です。全従業員が Google Workspace を利用し、そのうち 80% が積極的に Gemini を活用しています。同組織は以前にも生成 AI を試験的に採用したことがありますが、Workspace は全従業員を対象に組み込まれた AI を企業全体で本格導入する初めての事例となります。
- **導入の特徴** モデル組織における Workspace の導入には、社内 IT チームが主導する 6 か月間の実装および移行作業が含まれ、その後、同チームの一部がプラットフォームの継続的な管理を担当します。全従業員が、導入当初に Workspace とその AI 機能を学習し、操作に慣れる時間を費やししながら、新機能が導入されるたびに継続的な学習も行います。

🔊 主な前提条件

- 年間売上 40 億ドル
- 従業員 20,000 人
- 全従業員が Workspace ユーザー
- 従業員の 80% が Gemini ユーザー

利益分析

モデル組織に適用された定量的利益のデータ

総利益						
参照コード	利益	1年目	2年目	3年目	合計	現在価値
Atr	Gemini を活用した AI 支援	\$30,600,000	\$30,600,000	\$30,600,000	\$91,800,000	\$76,097,671
Btr	NotebookLM および翻訳における AI 活用事例	\$11,400,000	\$13,900,000	\$16,400,000	\$41,700,000	\$34,172,802
Ctr	セキュリティおよび IT 効率の向上	\$2,019,780	\$2,562,030	\$3,375,405	\$7,957,215	\$6,489,536
Dtr	コラボレーションおよびワークフロー効率の向上	\$12,336,000	\$12,336,000	\$12,336,000	\$37,008,000	\$30,677,806
Etr	既存システムの廃止によるコスト削減	\$2,400,000	\$2,400,000	\$2,400,000	\$7,200,000	\$5,968,445
	総利益（リスク調整後）	\$58,755,780	\$61,798,030	\$65,111,405	\$185,665,215	\$153,406,260

Gemini を活用した AI 支援

エビデンスとデータ インタビュー参加者は、Gemini を自社の AI 戦略の中核を成す変革的なツールであると評しました。すべてのインタビュー参加者の組織は、Gemini の導入状況とその影響を把握するために大規模な従業員調査を実施しており、その結果、従業員の効率性、能力、業務成果の質への影響を詳細に示す極めて充実したデータセットが得られました。すべてのインタビュー参加者の組織において、従業員の約 80% が Gemini を定期的に利用しています。Gemini の利用はほぼすべての職種や業務領域に広がっており、インタビュー参加者は一貫して大幅な時間の節約があったと報告しています。効率の向上に加えて、インタビュー参加者は、Gemini がアシスタントとして機能し、従業員が業務の質を向上させ、より複雑な業務に取り組み、自信と創造性をもって業務を遂行できるようにした点を強調しました。インタビュー参加者はさらに、Gemini の以下の利点を挙げました。

- **従業員の肯定的な評価と幅広い導入状況。** インタビュー参加者は一貫して、Gemini が従業員の間で非常に人気であると報告しており、事実上すべての職種で利用されています。これには、オペレーション、人事、財務、法務、営業、マーケティング、IT、エンジニアリング、分析、R&D、さらに顧客対応チーム、経営幹部、中間管理職、現場スタッフも含まれます。金融サービス企業のデジタルエクスペリエンス担当副社長は次のように述べています。「Gemini は極めて強力です。誰もが利用しています」
- **従業員の大幅な時間削減。** すべてのインタビュー参加者は、Gemini により従業員全体で大幅な時間削減が実現しており、ユーザー 1 人あたり週平均 3～5 時間の節約が見られると報告しています。デジタルエクスペリエンス担当副社長は次のように説明しています。「すべての事業部門において、平均的なユーザーは Gemini を使うことで 1 日あたり約 1 時間を節約しており、これは驚くべき成果です。これにより、従業員は他の業務に時間を割けるようになりました。Gemini を導入したことで多くの成果が得られ、エンドユーザーの 80% が積極的に利用しています」
- **ワークフローの変革。** 金融サービス企業の AI 導入責任者は次のように付け加えています。「Gemini は時間を節約するだけでなく、ワークフロー全体を変革します。一部の業務は、数時間かかっていたものが数分で完了するようになりました」
- **Workspace アプリへの Gemini 統合。** インタビュー参加者は、Gemini が Workspace アプリ全体に緊密に統合されていることで、断片化されない一貫した AI 体験が実現されている点を強調しました。金融サービス企業のデジタルエクスペリエンス担当副社長は次のように説明しています。「Workspace のすべての機能が Gemini と統合されています。Gemini はシームレスに組み込まれており、たいへん役立ちます。別のウィンドウを開く必要がありません。Docs では、Gemini のプロンプトがすぐ横に表示されます。Meet では、メモを取り、アクションアイテムを作成することができます」通信業界の AI 製品担当ディレクターは次のように付け加えています。「Gemini が Meet に組み込まれているので、メモを取ることに気を取られず、議論に集中できます」

「Gemini は大成功を収めており、ユーザーの 78% が毎日利用し、顧客満足度（CSAT）は 83% です。95% のユーザーが生産性の向上を報告し、具体的かつ測定可能な効果が現れています」

AI 導入責任者（金融サービス）

- **従業員の業務成果の質の向上。** 生産性の大幅な向上に加え、インタビュー参加者は Gemini が業務成果の質を向上させることを繰り返し指摘しています。AI 導入責任者は「Gemini は従業員の業務の速度と質を向上させます」と述べています。AI 製品担当ディレクターは次のように付け加えています。「（従業員の）92% が Gemini によって革新的な働き方が促進されたと回答し、80% が業務の質が向上したと答えています」
- **職種・業務領域を横断した幅広い AI 活用事例。** インタビュー参加者の組織では、ほとんどの従業員が日常的に Gemini を幅広いユースケースで活用していますが、具体的には、調査・要約、文章の作成・改善、翻訳、アイデア創出、会議の準備、契約書や法務文書の理解、データの概要の把握、マーケティングコンテンツの作成、コーディングやその他の技術的業務などが含まれます。インフラ担当シニアマネージャーは次のように付け加えています。「従業員の約 80% が毎日 Gemini を利用しています。多くの価値を引き出し、生産性が向上しています。作業スピードも上がっています。それはマインドセットの変化も生み出しています」
- **従業員のコミュニケーションの明確化および質の向上。** インタビュー参加者は、Gemini が従業員のコミュニケーションの明確さと効果を向上させるために頻繁に活用されていると指摘しています。AI 導入責任者は、自社の Gemini ユーザーの 79% が、文章の作成、改善、修正に Gemini を活用していると報告しています。インフラ担当シニアマネージャーは次のように付け加えています。「（Gemini は）従業員のコミュニケーションの明瞭性を向上させ、内容の客観性も高めます」
- **従業員の能力の拡張。** インタビュー参加者によると、Gemini により従業員は以前なら避けていた、あるいは実行できなかった業務を遂行できるようになり、効果的なプレゼンテーション作成、データ分析、アイデア創出、コーディングなどの業務へのハードルが下がったといいます。
- **従業員の自信向上および複雑な業務に取り組む意欲の増加。** インタビュー参加者は、Gemini は従業員の能力を置き換えるのではなく拡張し、オフィスワーカーと現場スタッフの双方が担える業務の範囲を広げた点を強調しました。協働テクノロジー担当マネージャーは次のように述べています。「Gemini は能力拡張ツールです。人々の能力を高めてくれます。『自信がついた』『より大きな挑戦に取り組めるようになった』というユーザーの声を聞けるのが本当に嬉しいです」
- **動画制作の効率向上。** 一部のインタビュー参加者は、自社で Google Vids を活用しており、スクリプト作成、録画、編集のプロセスを簡略化することで、動画コンテンツを効果的に作成できる従業員の数が大幅に増えたと述べています。AI 製品担当ディレクターは、Vids により動画制作の所要時間が 1 日から 1 時間未満に短縮されたとコメントしています。

「Gemini に関する社内調査を実施したところ、ユーザーから驚くほど早く回答が寄せられました。これほど早く回答が集まった調査はありませんでした。ユーザーが Gemini をどのように活用しているか、そして効率性、機能、処理能力などにどのような価値を見出しているかについて、文字通り数千件もの事例を収集することができました。業務の質が 25% 向上したと報告されています。作業のスピードが上がっただけでなく、質も向上しています」

協働テクノロジー担当マネージャー（テクノロジー）

- **より影響力の大きい業務に充てられる時間の増加。** Gemini による時間の節約により、インタビュー参加者の組織の従業員は、より戦略的で影響力の大きい業務に集中できるようになりました。金融サービス企業のデジタルエクスペリエンス担当副社長は次のように述べています。「(Gemini を使うことで) より質の高い業務をより短時間でこなせるようになり、節約した時間を他の業務に振り向けられるようになりました。こうした AI ゴールドラッシュの初期段階で、こうした事例が至る所で見られます」
- **Gems を活用した再利用可能で軽量なエージェント型ワークフロー。** インタビュー参加者は、Gems を Gemini の重要な構成要素として挙げ、従業員が構築して再利用できる軽量なエージェント型ワークフローを提供していると強調しました。テクノロジー企業のワークプレイステクノロジー担当シニアマネージャーは「Gems は驚くべき価値をもたらした」と述べています。
- **Gems によって実現される業務品質の向上とコスト削減。** 通信業界の AI 製品担当ディレクターは、Gems が財務および人事のワークフローにおいて業務品質の向上とコスト削減をもたらしていると説明しました。「Gems を活用して社内の予算申請の内容を把握することで（予算編成プロセスの）質が向上しています。また、Gems を人事の性格・パーソナリティ適性検査にも活用しており、コスト削減効果も得られています」
- **Gems による営業チームの業績向上。** 営業チームは業績向上に向けて Gems を活用しており、協働テクノロジー担当マネージャーは次のように説明しています。「当社には営業用の Gem があります。営業担当者はこれを高く評価し、常に活用しています。当社の優秀な営業担当者の協力を得て、営業支援用の Gemini コーチを構築しました。このコーチは各自のノルマや担当エリアを把握し、モチベーション向上にも長けています」
- **収益の成長。** 同インタビュー参加者は、Gemini がどのように収益の成長を促進したかについて詳しく説明しました。「(Gemini を使うことで、営業チームは) 見積書や商談案件をより迅速にまとめることができ、ビジネスの拡大をもたらしています。つまり、既存顧客と新規顧客の双方に対して、より多くの売上を、より迅速に上げるサポートをすることで、収益が増加しているのです」

「Gems は Gemini の強力な構成要素です。人々にエージェント型 AI の魅力を実感させる機能と言えます」

デジタルエクスペリエンス担当副社長（金融サービス）

モデル化と前提条件 インタビューを基に Forrester が想定したモデル組織の前提は以下の通りです。

- 従業員は 20,000 人で、そのうち 80% が定期的に Gemini を利用しています。
- ユーザーは Gemini によって、平均で週に 3 時間の時間を節約しています。これにより、組織全体で年間 240 万時間が節約されます。
- 従業員の全経費込の時給 30 ドル。
- 従業員の生産性の回収率は 50%。これは、従業員が節約された時間の 50% を実際の生産的な業務に充てることを意味します。

リスク Gemini を活用した AI 支援の利点は、以下の要因によって異なります。

- Gemini 導入の程度
- Gemini 導入前に従業員が利用可能だったツールと AI 機能
- 従業員数および従業員の全経費込の時給

結果 これらのリスクを反映させるため、Forrester はこの利益を 15% 下方調整し、3 年間のリスク調整後の合計現在価値（割引率 10%）を 7,610 万ドルとしました。

Gemini を活用した AI 支援					
参照コード	評価基準	ソース	1年目	2年目	3年目
A1	Workspace ユーザー総数	モデル組織	20,000人	20,000人	20,000人
A2	Gemini を活用しているユーザーの割合	インタビュー調査	80%	80%	80%
A3	Gemini を活用しているユーザー	A1*A2	16,000	16,000	16,000
A4	Gemini によってユーザー1人あたり週平均で節約される時間（時間）	インタビュー調査	3	3	3
A5	Gemini により組織全体で節約した時間	A3*A4*50	2,400,000	2,400,000	2,400,000
A6	従業員 1 人当たりの全経費込時給	モデル組織	\$30	\$30	\$30
A7	生産性の回収	TEI 標準	50%	50%	50%
At	Gemini を活用した AI 支援	A5*A6*A7	\$36,000,000	\$36,000,000	\$36,000,000
	リスク調整	↓ 15%			
Atr	Gemini を活用した AI 支援（リスク調整後）		\$30,600,000	\$30,600,000	\$30,600,000
3年間の総額：\$91,800,000			3年間の現在価値：\$76,097,671		

NotebookLM と翻訳における AI 活用事例

エビデンスとデータ インタビュー参加者は、NotebookLM を中心とした AI の活用事例や、Workspace 全体に組み込まれている自動翻訳機能の活用について報告しています。大量の情報を扱うチームは、NotebookLM を多用しており、特にデータを統合・理解し、それに基づいて行動する必要がある上級社員にとって、構造化された出力とユーザーが提供した情報源に基づく明確な引用の正確性と信頼性を確保するのに役立ちました。インタビュー参加者によると、これらのユーザーは平均して 1 人あたり週 10～12 時間という大幅な時間削減を実感していると報告されています。さらにインタビュー参加者は、Workspace のリアルタイム翻訳機能やその他の AI 活用ツールが、既存の従業員のスキル向上を促し、人材の定着にも寄与していると報告しています。例えば、デジタルエクスペリエンス担当副社長は、これらの機能により、買収した企業をグローバルチームに統合する過程で、同社の金融サービス部門が 1,000 人以上の従業員を維持できたと述べています。インタビュー参加者はさらに、以下の利点を強調しました。

- NotebookLM の幅広い部門横断的な導入。** 複数のインタビュー参加者は、特に文書や情報を多く扱う部門で、NotebookLM の幅広い採用が進んでいると報告しています。消費財企業のインフラ担当シニアマネージャーは次のように述べています。「NotebookLM の利用者は非常に多く、マーケティング、研究開発、財務、IT、オペレーション・物流が、NotebookLM を最も活用している主要5部門です。i NotebookLM を使って、文書や情報を要約し、さらにメール、画像、動画を作成しています」
- 上級社員にとっての高い価値。** NotebookLM は、特に大量のデータを分析・活用する業務を担う上級社員に多大な恩恵をもたらしました。金融サービス企業の AI 導入責任者は次のように報告しています。「NotebookLM を頻繁に使用していますが、非常に素晴らしいツールだと思います。大量の情報を扱う上級社員は、このツールを非常に気に入っています。データを整理し、必要な情報を簡単に見つけられるようになります。非常に有用です」
- 中核的な事業目標の支援。** インタビュー参加者は、NotebookLM の幅広い活用事例が事業価値を生み出していると述べています。具体例としては、売上向上を支援する営業支援資料の統合、市場動向の分析、法務レビューの支援、複雑な概念をわかりやすく解説するショート動画などの学習管理施策の実施が挙げられます。
- 契約分析およびサプライヤー管理の改善。** 金融サービス企業の AI 導入責任者は、NotebookLM により契約分析とサプライヤー管理が改善されたと説明しました。「当社は NotebookLM を使って、サプライヤーとの契約を管理しています。具体的な契約条件を理解するうえで、非常に役立ちます。生産性と業務の質が向上しました」

- **顧客インサイトおよび社内コミュニケーションの強化。** マーケティングチームは、NotebookLM を活用して顧客データを分析し、そのインサイトを社内で共有しました。消費財企業のインフラ担当シニアマネージャーは次のように述べています。「マーケティング部門は、顧客データ、アンケート、トレンドの把握に NotebookLM を活用しています。ポッドキャストや動画の要約機能を頻繁に利用しています。NotebookLM は特定の製品に関する情報を要約して、社内チームと共有してくれます」
- **小売および在庫管理の改善。** 同じインタビュー参加者は、NotebookLM により社内チャットボットを構築し、実店舗の管理業務や在庫管理の改善を支援していると報告しました。インタビュー参加者は次のように説明しています。「当社は NotebookLM を活用したチャットボットを導入し、店舗が在庫、キャンペーン、管理に関する標準化された情報を待つことなく、直ちに正確に取得できるようにしています」

「社内アンケートで最も支持されているツールは NotebookLM です。より経営に即した形で情報を作成します。当社には、（データポイントの）比較、論文の読解、調査研究を行う必要がある研究開発部門のスタッフが多数存在します。NotebookLM を使えば、こうした作業を数日ではなく数時間で完了できます。多大な価値をもたらしています。すべてが1つの環境に集約されています」

インフラ担当シニアマネージャー（消費財）

- **リアルタイム翻訳による買収した企業の従業員の定着。** デジタルエクスペリエンス担当副社長は、金融サービス企業が新しい企業を買収する際、Workspace のリアルタイム翻訳を活用して既存の従業員を維持できたと述べています。インタビュー参加者は次のように説明しています。「(Workspace がなければ) 現在のような形で新しい企業や従業員を受け入れることはできなかったでしょう。再募集を余儀なくされていたはず」
- **スキル向上と従業員の定着。** 同じインタビュー参加者は、Gemini、リアルタイム翻訳、および Workspace の各種機能が既存の従業員のスキル向上を可能にし、人材の定着を実現した方法について次のように語っています。「過去に企業を買収した際、多くの場合、必要なスキルを得るためにほとんどの人員を入れ替えなければならませんでした。しかし、Workspace のツールを使うことで、既存の従業員をはるかに容易に活用できるようになりました」
- **組み込み型 AI 支援による従業員の幅広いスキル向上。** より広範な観点から、インタビュー参加者は Workspace が既存の従業員のスキルを補強するのに役立ったと述べています。日常のツールに AI 支援が直接組み込まれたことで、以前であればより専門的なスキルを必要とした業務、例えばデータ分析、コンテンツ作成、技術的業務などを従業員が担当できるようになりました。

モデル化と前提条件 インタビューを基に Forrester が想定したモデル組織の前提は以下の通りです。

- 1 年目には 10 チームが NotebookLM を活用し、2 年目には 15 チーム、3 年目には 20 チームに増加します。チームあたりの平均従業員数は 50 人です。
- NotebookLM により、これらの従業員は週平均 10 時間の時間を節約しています。これにより、組織全体で 1 年目は年間 250,000 時間、2 年目は 375,000 時間、3 年目は 500,000 時間の時間が節約されます。
- NotebookLM ユーザーの全経費込時給は 50 ドルです。
- 従業員の生産性の回収率は 50%。これは、従業員が節約された時間の 50% を実際の生産的な業務に充てることを意味します。
- Workspace の AI 翻訳機能のおかげで、本来なら入れ替えが必要だった 400 名の従業員が維持されます。維持された従業員 1 人あたりの回避された採用コストは 20,000 ドルです。

「[Workspace の AI は] 誰でも利用でき、どのレベルでも価値を提供します。従業員が NotebookLM にアクセスしてインフォグラフィックを作成すると、驚くほどの成果が得られます。同様に、Veo や Vids を使った場合も、効果抜群です。導入の促進にも役立ち、製品自体に魅力があります」

協働テクノロジー担当マネージャー（テクノロジー）

リスク NotebookLM および翻訳における高度な AI 活用の利点は、以下の要因に基づいて変動します。

- 従業員の役割および NotebookLM の導入率
- Workspace の翻訳やその他の AI 機能が、従業員のスキル向上や維持に活用されている度合い
- Workspace 導入前に使用されていたツール
- 従業員の全経費込平均時給
- 採用コスト

結果 これらのリスクを反映させるため、Forrester はこの利益を 20% 下方修正し、3 年間のリスク調整後の合計現在価値（割引率 10%）を 3,420 万ドルとしました。

週 10 時間

NotebookLM ユーザー 1 人あたりの節約時間

1,000 人以上

Workspace のグローバル翻訳および AI により維持された
従業員

NotebookLM と翻訳における AI 活用事例					
参照コード	評価基準	ソース	1年目	2年目	3年目
B1	専門的なユースケースで NotebookLM を活用しているチーム	モデル組織	10	15	20
B2	チームあたりの従業員数	モデル組織	50	50	50
B3	NotebookLM によって従業員1人あたり週平均で節約される時間（時間）	インタビュー調査	10	10	10
B4	NotebookLM により組織全体で節約した時間	$B1 \times B2 \times B3 \times 50$	250,000	375,000	500,000
B5	NotebookLM を使用する従業員の全経費込時給	モデル組織	\$50	\$50	\$50
B6	生産性の回収	TEI 標準	50%	50%	50%
B7	NotebookLM の財務的効果	$B4 \times B5 \times B6$	\$6,250,000	\$9,375,000	\$12,500,000
B8	Google Workspace によるグローバル翻訳で維持された従業員数	インタビュー調査	400	400	400
B9	維持された従業員 1 人あたりの回避された採用コスト	モデル組織	\$20,000	\$20,000	\$20,000
B10	Google Workspace によるグローバル翻訳によって従業員を維持したことによる財務的効果	$B8 \times B9$	\$8,000,000	\$8,000,000	\$8,000,000
Bt	NotebookLM および翻訳における AI 活用事例	$B7 + B10$	\$14,250,000	\$17,375,000	\$20,500,000
	リスク調整	↓ 20%			
Btr	NotebookLM および翻訳における AI 活用事例（リスク調整後）		\$11,400,000	\$13,900,000	\$16,400,000
3年間の総額：\$41,700,000			3年間の現在価値：\$34,172,802		

セキュリティおよび IT 効率の向上

エビデンスとデータ インタビュー参加者は、組織にとって安全な AI が極めて重要であると強調しました。Google が Workspace プラットフォームおよびその AI 機能全体にわたり、必要なエンタープライズ向けセキュリティ、データプライバシー保護、および組織データの管理を一貫して提供していると述べています。より広く見ると、インタビュー参加者は、Workspace のクラウドネイティブアーキテクチャ、一元化された ID およびアクセス管理、統合されたセキュリティモデルが、全体として強固なセキュリティ体制を支えていると指摘しています。インタビュー参加者は、セキュリティの改善を主に ROI の観点で評価したわけではありませんが、それでも、Workspace 導入により不要になったセキュリティソリューションの廃止や統合、プラットフォーム管理における大幅な時間節約など、有意義なコスト削減と効率化が実現したと報告しています。インタビュー参加者は一般的に、Workspace は従来のシステムと比べて管理・運用に必要な IT 労力が約 50% 少なく、ヘルプデスクへの問い合わせ件数も約 50% 減少し、新しいワークステーションの設定にかかる時間は平均で 90% 短縮されたと報告しています。インタビュー参加者は、さらに以下のセキュリティおよび IT 効率に関するメリットを強調しました：

- エンタープライズ向けプライバシー保護。** インタビュー参加者は、Google のエンタープライズレベルのプライバシー保護機能が、Workspace への投資を決定する主要な要因であったと述べています。テクノロジー企業のワークプレイステクノロジー担当シニアマネージャーは「Google が提供するセキュリティには非常に信頼を置いています」と結論付けました。
- セキュリティチームにとっての推奨プラットフォーム。** 同じインタビュー参加者は、Workspace が自社のセキュリティチームにとって推奨プラットフォームであると述べています。「Google Workspace への投資を決定する際、セキュリティチームは大きな発言権を握っており、セキュリティの確保が容易だと感じたため、導入を希望しました。当社のセキュリティチームは非常に肯定的に感じており、セキュリティレベルの高さに深く感銘を受けています」

- **安全な AI の活用。** インタビュー参加者は、これらのセキュリティおよびプライバシー保護が Workspace ポートフォリオ全体に適用されているため、急速に導入が進み、従業員の働き方の中心となりつつある AI ツールの承認が容易になったと述べています。テクノロジー企業の協働テクノロジー担当マネージャーは次のように説明しています。「Gemini、NotebookLM、Workspace の AI ツール全体が、セキュリティが確保されているからこそ提供できると、従業員に自信を持って伝えられます。シンプルかつ分かりやすいメッセージであり、補足説明を加える必要もありません。これが Google の強みです」
- **一元化されたセキュリティアプローチ。** この一元化されたセキュリティアプローチにより、インタビュー参加者の組織は新しい Workspace アプリや機能を迅速に展開できるようになりました。通信業界の AI 製品担当ディレクターは次のように述べています。「メリットは、NotebookLM や Workspace Studio などの Workspace アプリケーション、あるいは新しいツールを試す際も、Google のセキュリティ体制で守られていることが保証されており、容易に展開できる点です」

「Workspace はセキュリティ面で大きな助けになっています。Google のセキュリティは、社内で使用しているものより優れています。Google のプライバシー対策には信頼を寄せています。セキュリティの心配をする必要がないので、容易に適應できると安心できます」

AI 製品担当ディレクター（電気通信）

- **Google の完全に統合された AI スタック。** インタビュー参加者は、完全に統合されたスタックの一部として AI を開発・所有・提供する Google のアプローチにより、データプライバシーやガバナンスに対する信頼が高まり、サードパーティに依存する方法よりも AI 機能の展開が迅速に行えると述べています。インタビュー参加者は、このアプローチにより、Google は他社よりも迅速に AI 機能を革新・進化させることができると語っています。
- **安全で高品質な AI ツールおよびシャドウ IT の回避。** Workspace を通じて安全で承認済みの高品質な AI ツールを提供することで、インタビュー参加者の組織ではシャドウ IT の発生とそれに伴うリスクを防ぐことができました。AI 製品担当ディレクターは次のように説明しています。「もし会社が（Workspace の AI ツールを導入することで）対応しなかった場合、確実に従業員は私的なツールを使用し、それがシャドウ IT の原因となっていたでしょう。そうした非公式なソリューションは、セキュリティ上の問題やデータ漏えいのリスクを伴う可能性があります」
- **冗長なセキュリティツールの統合によるコスト削減。** Workspace において、インタビュー参加者は主にコスト削減ではなく、優れたセキュリティによるリスク低減とデータ保護の利点に注目していました。とはいえ、これらの機能が Workspace に含まれているため、インタビュー参加者の組織は迷惑メール対策やフィッシング対策、暗号化、データ損失防止などの各種ポイントソリューションを廃止することができました。AI 製品担当ディレクターは次のように述べています。「迷惑メール対策などのセキュリティソリューションを廃止しました。Google Workspace にすでに迷惑メール対策機能があるため、同じ機能を別途に保持する意味はありません」
- **簡素化され、より効率的な IT 管理。** Workspace のクラウドネイティブアーキテクチャにより、手動でのインストール、パッチ適用、継続的な保守の必要性が軽減されたため、インタビュー参加者の組織が従来使用していたソリューションと比べて管理が格段に容易でした。

「Google Workspace への移行により、IT の生産性が大幅に向上しました。クラウド上で運用されているためアプリケーションをインストールする必要がなくなり、サポートチケットの件数が大幅に減りました。これは非常に大きな成果です。経営幹部も、その違いについて言及したほどです」

AI 製品担当ディレクター（電気通信）

モデル化と前提条件 インタビューを基にForresterが想定したモデル組織の前提は以下の通りです。

- Workspaceのセキュリティが強化されたため、サードパーティの迷惑メールおよびフィッシング対策ソリューションは、時間をかけて段階的に廃止されます。これらのツールを廃止することによるコスト削減額は、1年目が275,000ドル、2年目が412,500ドル、3年目が618,750ドルです。
- Workspaceのセキュリティが強化されたため、サードパーティの暗号化ソリューションは、時間をかけて段階的に廃止されます。これらのツールを廃止することによるコスト削減額は、1年目が330,000ドル、2年目が495,000ドル、3年目が742,500ドルです。
- Workspaceのセキュリティが強化されたため、サードパーティのデータ損失防止（DLP）ソリューションは、時間をかけて段階的に廃止されます。これらのツールを廃止することによるコスト削減額は、1年目が600,000ドル、2年目が900,000ドル、3年目が1,350,000ドルです。
- Workspace導入前、ITチームは新しいデバイスの設定に年間10,000時間を費やしていました。Workspaceを導入することで、この作業時間は90%削減されます。
- Workspace導入前、ITチームはヘルプデスクチケット対応および継続的なソリューション管理に年間16,640時間を費やしていました。Workspaceを導入することで、これが50%削減されます。
- IT従業員の全経費込の時給は60ドルです。

「Workspaceではサポートチケットが発生しません。従来のソリューションでは、インストールや再インストールなどに関して、月に約150件のサポートチケットがありましたが、現在ではもうありません」

インフラ担当シニアマネージャー（消費財）

リスク セキュリティ向上とIT効率の改善の利点は、以下の要因に基づいて変動します。

- サードパーティのセキュリティソリューションのコストおよびWorkspaceの強化されたセキュリティを考慮して組織が廃止するソリューションの内容
- 従来のソリューションおよびその管理に必要な時間
- 従来のソリューションで新しいデバイスを設定するのにかかる時間
- IT担当チームのスキルセット
- IT従業員の全経費込の時給
- 組織のセキュリティ戦略およびニーズ

結果 これらのリスクを反映させるため、Forresterはこの利益を10%下方修正し、3年間のリスク調整後の合計現在価値（割引率10%）を650万ドルとしました。

50%

サポートチケット数の削減と継続的な管理業務の軽減

90%

デバイス設定時間の短縮

セキュリティおよび IT 効率の向上					
参照コード	評価基準	ソース	1年目	2年目	3年目
C1	廃止された迷惑メール対策およびフィッシング対策ソリューションによるコスト削減	インタビュー調査	\$275,000	\$412,500	\$618,750
C2	廃止された暗号化ソリューションによるコスト削減	インタビュー調査	\$330,000	\$495,000	\$742,500
C3	DLP ソリューションの統合および廃止によるコスト削減	インタビュー調査	\$600,000	\$900,000	\$1,350,000
C4	既存のセキュリティソリューションの統合および廃止によるコスト削減	C1+C2+C3	\$1,205,000	\$1,807,500	\$2,711,250
C5	旧製品での新規デバイス設定にかかるIT作業時間（時間）	モデル組織	10,000	10,000	10,000
C6	Workspace での新規デバイス設定時間の短縮	インタビュー調査	90%	90%	90%
C7	Workspace での新規デバイス設定による時間節約（時間）	C5*C6	9,000	9,000	9,000
C8	旧システムのヘルプデスク対応および継続的なソリューション管理に費やす時間（時間）	モデル組織	16,640	16,640	16,640
C9	Workspace によるチケット対応および継続的なソリューション管理の削減	インタビュー調査	50%	50%	50%
C10	Workspace によるチケット対応および継続的なソリューション管理の削減による時間節約（時間）	C8*C9	8,320	8,320	8,320
C11	Workspace で短縮できた時間	C7+C10	17,320	17,320	17,320
C12	IT 従業員の全経費込時給	モデル組織	\$60	\$60	\$60
C13	Workspace による IT 効率化の財務的效果	C11*C12	\$1,039,200	\$1,039,200	\$1,039,200
Ct	セキュリティおよび IT 効率の向上	C4+C13	\$2,244,200	\$2,846,700	\$3,750,450
	リスク調整	↓ 10%			
Ctr	セキュリティおよび IT 効率の向上（リスク調整後）		\$2,019,780	\$2,562,030	\$3,375,405
3年間合計：\$7,957,215			3年間の現在価値：\$6,489,536		

コラボレーションおよびワークフロー効率の向上

エビデンスとデータ インタビュー参加者は、Workspace の主要な価値提案の一つが、チーム間でより効果的かつ効率的なコラボレーションを可能にすることだと強調しています。インタビュー参加者によると、Workspace はサイロ化を解消し、従業員がリアルタイムでコミュニケーション、コラボレーション、共同作業を行える単一のプラットフォームとして機能しました。インタビュー参加者は、これらの改善により共同作業に費やす時間が平均で約 30% 削減されたと推定しています。複数のインタビュー参加者の組織では、これらの効率向上は、他の Workspace アプリと併せて AppSheet を使用したエンドツーエンドのワークフローオーケストレーションにも及びました。これらの組織のインタビュー参加者によると、AppSheet はワークフローおよび自動化ソリューションの迅速な開発を可能にし、従来の手法と比べてアプリ開発時間を平均で 80% 削減したと言えます。インタビュー参加者はさらに、以下のコラボレーションおよびワークフローの利点も強調しています。

- 包括的なプラットフォームとしての Workspace。** インタビュー参加者は、Workspace が包括的なプラットフォームとして機能し、従業員が協力して作業しやすくなるとともに、最大限のパフォーマンスを発揮できるよう支援していると述べてい

ます。テクノロジー企業のワークプレイステクノロジー担当シニアマネージャーは、「Workspace は当社のすべてのコミュニケーション、コラボレーション、そして生産性の中核を成しています」と言います。

- **すべてのアプリにまたがる密接な統合。** インタビュー参加者は、Gmail、Drive、Meet、Chat、Docs、Sheets、Slides に加え、Gemini や NotebookLM などの Workspace アプリが、同じクラウド環境内で密接に統合されていることを指摘しています。この統合により、従業員が情報を検索したり、会議で協働したり、コンテンツの作成や業務の進行に関してコミュニケーションを取ったりする方法が簡素化されました。
- **使いやすさ。** Workspace の使いやすさは、コラボレーションの向上に貢献しています。消費財企業のインフラ担当シニアマネージャーは次のように述べています。「Workspace の導入により、社員同士のコラボレーションが活発化しました。Workspace でのコラボレーションは非常に簡単で、ツールの使い方を説明する必要もありません」
- **オンボーディングの迅速化と生産性発揮までの時間の短縮。** インタビュー参加者はまた、Workspace の直感的なデザインが新入社員のオンボーディングと早期の業務開始を促進したとの声が聞かれ、これは特に大企業や、成長・買収の過程にある組織にとって重要な点でした。金融サービス企業のデジタルエクスペリエンス担当副社長は次のように述べています。「Workspace は他のプラットフォームより直感的です。従業員が素早く業務に慣れるのに非常に役立ちます。（新入社員は）オンボーディングを通じ、はるかに早く業務に慣れることができます」
- **バージョン管理とリアルタイムのコラボレーション。** インタビュー参加者によると、Workspace はバージョン管理に優れており、従業員が同じファイルで作業できるほか、アクセスを必要とする人が常に最新バージョンを閲覧または編集できる点が評価されています。インタビュー参加者は、ファイルを中央で一元管理し、簡単に共有できことから、Drive がこのモデルの重要な要素であると指摘しています。さらに、Gmail、Meet、Chat は主要なコミュニケーションチャネルとして機能し、オフィス勤務の従業員と現場勤務の従業員の双方が、デバイスや役割を超えて業務を調整し、情報を共有し、リアルタイムでコラボレーションできるようにしました。

「Workspace の価値は、プラットフォームや同僚との協働の方法において、異なるアプローチを取ることができる点にあります。Workspace は、ドキュメント、プレゼン資料、会議におけるコラボレーションを重視しています。より良く協力して働くというマインドセットが生まれます」

AI 製品担当ディレクター（電気通信）

- **AppSheet によるワークフローオーケストレーション。** インタビュー参加者は、Workspace がエンドツー エンドのワークフローオーケストレーションを可能にした方法についても説明し、特に AppSheet を通じて、迅速なノーコードアプリケーション開発を実現したと述べています。インタビュー参加者は、AppSheet を使用して、広く利用される在庫管理、HR クリアランス、eコマースアプリを数週間で構築・修正し、必要に応じて Workspace アプリとネイティブに統合したと述べています（例：コミュニケーションは自動的に Docs や Sheets に反映され、Drive に保存され、その後 Gemini で要約されました）。
- **アプリ開発の迅速化。** AI 製品担当ディレクターは次のように報告しています。「AppSheet を使用することで、アプリ開発時間が約 80% 削減され、現在、当社では 1,000 以上の AppSheet アプリが実際に使用されています」
- **ノーコード開発による時間とコストの削減。** インタビュー参加者は、AppSheet が使いやすいノーコードプラットフォームであり、エンドユーザーが自分のワークフローで特定した課題を直接解決できるようにすると述べています。これによりソフトウェア開発チームへの依存が減り、チームは優先度の高いプロジェクトに集中できるようになりました。通信業界のインタビュー参加者は、従来の手法の代わりに AppSheet を使用することで、約 600 万ドルのコスト削減になったと推定しました。
- **AppSheet の使いやすさ（ロングテールおよびニッチなワークフローにも対応）。** その使いやすさから、インタビュー参加者は、通常であれば見過ごされがちなニッチなユースケースのために AppSheet が活用されることがあると述べています。よ

り広い観点では、インタビュー参加者の組織は、ロングテールな自動化ニーズに対応し、専門的なワークフローを効率化するために、他の Workspace アプリと併せて AppSheet を活用していました。

「当社は創業 100 年以上になりますが、これまでにこれほど良い状況だったことはありませんGoogle Workspace は、当社の変革を支える助けとなりました。当社は俊敏性が高まり、従業員の力をより引き出せるようになっていきます。過去数年間で複数の企業を買収しましたが、Workspace により、新しい従業員や事業部との統合が容易になっています」

デジタルエクスペリエンス担当副社長（金融サービス）

モデル化と前提条件 インタビューを基にForresterが想定したモデル組織の前提は以下の通りです。

- Workspace のユーザー数は 2 万人で、週平均 3 時間を共同作業に費やしています。
- Workspace のおかげで、ユーザーは共同作業に費やす時間を 30% 節約できました。これにより、組織全体で年間 90 万時間の節約となります。
- AppSheet で作成されたワークフローや自動化ソリューションは 40 件あります。AppSheet 導入前は、このようなソリューションを開発するのに平均で 1 件あたり 2,000 時間かかっていました。
- AppSheet により、開発時間が 80% 削減されました。これにより、組織全体で年間 64,000 時間の節約となります。
- Workspace を利用するすべての従業員の全経費込の時給は 30 ドルです。ワークフローや自動化ソリューションを開発する従業員の全経費込の時給は 60 ドルです。
- 従業員の生産性の回収率は 50%。これは、従業員が節約された時間の 50% を実際の生産的な業務に充てることを意味します。

「Google Workspace が真に他の選択肢を上回るのは、アプリ間のシナジーと、アプリがシームレスに統合して機能する能力です」

ワークプレイステクノロジー担当シニアマネージャー（テクノロジー）

リスク 協働作業とワークフローの効率化による利点は、以下の要因によって変動します。

- Workspace の導入率や、ユーザーが共同作業に費やす時間
- AppSheet の導入率や、開発されたアプリの数
- Workspace 導入前に使用されていたツール
- 従業員の全経費込平均時給

結果 これらのリスクを反映させるため、Forrester はこの利益を 20% 下方修正し、3 年間のリスク調整後の合計現在価値（割引率 10%）を 3,070 万ドルとしました。

30%

共同作業の効率化の改善

80%

迅速なアプリ開発を AppSheet で実現

コラボレーションおよびワークフロー効率の向上					
参照コード	評価基準	ソース	1年目	2年目	3年目
D1	Workspace ユーザー総数	モデル組織	20,000人	20,000人	20,000人
D2	ユーザー 1 人あたりの週平均共同作業時間	モデル組織	3	3	3
D3	組織全体の総協働時間	D1*D2*50	3,000,000	3,000,000	3,000,000
D4	Workspace により共同作業で節約した時間	インタビュー調査	30%	30%	30%
D5	Workspace による協働の改善を通じて組織全体で節約した時間	D3*D4	900,000	900,000	900,000
D6	従業員 1 人当たりの全経費込時給	モデル組織	\$30	\$30	\$30
D7	生産性の回収	TEI 標準	50%	50%	50%
D8	Workspace による協働改善の財務的效果	D5*D6*D7	\$13,500,000	\$13,500,000	\$13,500,000
D9	AppSheet で作成されたワークフローまたは自動化ソリューション	モデル組織	40	40	40
D10	AppSheet 導入前のワークフローまたは自動化ソリューション開発にかかる平均時間	モデル組織	2,000	2,000	2,000
D11	AppSheet による時間節約（割合）	インタビュー調査	80%	80%	80%
D12	AppSheetによる時間節約	D9*D10*D11	64,000	64,000	64,000
D13	ワークフローおよび自動化ソリューションを開発する従業員の全経費込時給	モデル組織	\$60	\$60	\$60
D14	生産性の回収	TEI 標準	50%	50%	50%
D15	AppSheet による財務的效果	D12*D13*D14	\$1,920,000	\$1,920,000	\$1,920,000
Dt	コラボレーションおよびワークフロー効率の向上	D8+D15	\$15,420,000	\$15,420,000	\$15,420,000
	リスク調整	↓ 20%			
Dtr	コラボレーションおよびワークフロー効率の向上（リスク調整後）		\$12,336,000	\$12,336,000	\$12,336,000
3年間合計：\$37,008,000			3年間の現在価値：\$30,677,806		

従来システムの廃止によるコスト削減

エビデンスとデータインタビュー参加者によると、Workspace は組織にとって包括的なコラボレーションスイートとして機能し、オフィス勤務の従業員および現場勤務の従業員の双方をサポートするとともに、すべてのユーザーにエンタープライズ AI 機能も備えているとしています。その結果、Workspace は既存のレガシーなコラボレーションおよび生産性システムに取って代わり、インタビュー参加者の組織がそれらのシステムを廃止して、直接的なコスト削減を実現できるようになりました。インタビュー参加者はさらに、以下の利点を強調しました。

- **競争力のある価格設定と高いプラットフォームの価値。** インタビュー参加者は一貫して、Workspace が大きな価値を提供し、価格設定も競争力があると述べています。例えば、金融サービス企業のデジタルエクスペリエンス担当副社長は次のよ

- うに要約しています。「Workspace の価格設定は非常に競争力があり、すべての AI ツールが含まれています」
- **追加費用なしで利用できる AI 機能。** 複数のインタビュー参加者は、Gemini や NotebookLM が追加費用なく Workspace に含まれていることが、プラットフォームの大きな利点であり、その価値を高めるとともに、別途 AI ソリューションを購入する必要性をなくしていると指摘しています。
 - **ベンダーロックインのない柔軟な統合。** インタビュー参加者はまた、Workspace が他のエンタープライズシステムと統合できるため、硬直したアーキテクチャに縛られることなく戦略を随時調整でき、必要に応じて特定のユーザーやユースケース向けに代替ソリューションを利用できると述べています。

「Workspace には費用に見合う価値が間違いなくあります。Gemini が無料で含まれているのも、大きな利点のひとつです」

デジタルエクスペリエンス担当副社長（金融サービス）

モデル化と前提条件 インタビューに基づき、Forrester は、統合組織が Workspace 導入後にレガシーシステムを廃止し、年間 300 万ドルを節約すると想定しています。

リスク レガシーシステム廃止によるコスト削減の利点は、以下の要因により変動します。

- レガシー システムのコストと廃止までのスピード
- 廃止の程度と、ソリューションを部分的に維持するかどうか

結果 これらのリスクを反映させるため、Forrester はこの利益を 20% 下方修正し、3 年間のリスク調整後の合計現在価値（割引率 10%）を 600 万ドルとしました。

「Gemini は当初の期待を上回りました。さらにハードルは上がりましたが、Gemini は動画生成、画像生成、Nano Banana、（改善された）コーディング支援といった新機能により、依然として期待を上回り続けています。Gemini は過去 1 年間で飛躍的に進化した」

AI 製品担当ディレクター（電気通信）

従来システムの廃止によるコスト削減					
参照コード	評価基準	ソース	1年目	2年目	3年目
E1	廃止された既存システムのコスト	インタビュー調査	\$3,000,000	\$3,000,000	\$3,000,000
Et	既存システムの廃止によるコスト削減	E1	\$3,000,000	\$3,000,000	\$3,000,000
	リスク調整	↓ 20%			
Etr	既存システム廃止によるコスト削減（リスク調整後）		\$2,400,000	\$2,400,000	\$2,400,000
3年間合計：\$7,200,000			3年間の現在価値：\$5,968,445		

非定量的利益

インタビュー参加者は、組織で実際に認められた以下のような追加的な利益についても言及しましたが、定量化することはできませんでした。

- **従業員の自信、創造性、およびより影響力の大きい業務に取り組む意欲の向上。** インタビュー参加者は、Workspace、特に Gemini がアプリケーション全体に組み込まれていることで、従業員がより意欲的な業務に取り組めるようになり、作業が容易になり、成果物の質も向上したと語っています。テクノロジー企業の協働テクノロジー担当マネージャーは次のように述べています。「特に心が躍るのは、Gemini で従業員が自信をもって能力を伸ばしたことで、組織全体に生じたエネルギーと革新性です。単にそう感じるだけでなく、実際に成果が上がっている点が素晴らしいのです。（従業員にとっての）個人的な変革は、本当に素晴らしいものです」

「Gemini を含む Google Workspace は、私たちの業務に欠かせない存在です。より協働的になり、成果物の質も向上しました」

AI 製品担当ディレクター（電気通信）

- **組織の俊敏性とイノベーションの向上。** Workspace はビジネスニーズの変化に合わせて、インタビュー参加者の組織が新しい働き方を実験・導入し、イノベーションを推進することを容易にする統合プラットフォームとしての役割を果たしています。インタビュー参加者は、Workspace、特に AI ツールと使い慣れたアプリケーション、そしてエンタープライズグレードのセキュリティの組み合わせを、変革的であると評しました。通信業界の AI 製品担当ディレクターは、自社がすでに Workspace から大きなビジネス価値を得ていると述べ、さらに「Gemini、Gems、NotebookLM の能力をまだ十分に活用できていない」と付け加えています。
- **急速に進化する環境における AI 技術のリーダーシップ。** インタビュー参加者は、長期的に Google をパートナーとして信頼しており、その AI スタックの強力さを評価するとともに、絶え間ない改善とイノベーションが行われていることに注目していると述べています。テクノロジー企業の協働テクノロジー担当マネージャーは次のように付け加えました。「Google は、自社が展開している生成 AI モデルを保有している点で独自の立場にあります。同社には、大規模な開発を継続する十分なキャッシュフローがあることも明らかです。さらに、自社でチップも製造しています。この三つの要素をすべて備えた企業は他にありません。Google は非常に信頼できる存在であり、イノベーションのスピードも非常に迅速です」

「セキュリティは（Google Workspace を利用する）大きな理由ですが、プラットフォームの速度と革新性も同様です。Google は他社よりもはるかに速いペースで革新を行い、機能を追加しています」

ワークプレイステクノロジー担当シニアマネージャー（テクノロジー）

柔軟性

柔軟性の価値は、顧客ごとに異なります。顧客が Workspace を導入するシナリオは、次のように複数存在し、追加の使用やビジネスチャンスを後で実現する場合があります。

- **Workspace の展開に伴う Google とのパートナーシップ。** 複数のインタビュー参加者は、Google の継続的な製品開発と協力的なアプローチの重要性を強調しました。同参加者はプラットフォーム自体と自社組織の進化に伴い、Workspace が長期的に生産性とイノベーションのさらなる向上をもたらす能力を信頼しています。また、インタビュー参加者はその方向性を自ら形作っていくことができる点も言及しています。通信業界の AI 製品担当ディレクターは次のように説明しています。「私

Google Workspace の TOTAL ECONOMIC IMPACT™（総経済効果）

「私たちは Google に上げることができます。単なるベンダーとユーザーの関係ではなく、パートナーシップなのです」同インタビュー参加者は今後のサービス提供内容も把握しており、次のように付け加えました。「私が評価しているのは、Google がロードマップを共有してくれている点です」

柔軟性は、特定のプロジェクトの一環として評価される場合には、定量化されることもあります（詳細は [Total Economic Impactアプローチ](#) を参照）。

「Google は、機能や技術の追加と、シンプルさと使いやすさの適切なバランスを重視しており、これは私たちにとって非常に重要なものです」

ワークプレイステクノロジー担当シニアマネージャー（テクノロジー）

コストの分析

モデル組織に適用される定量化されたコストデータ

総コスト							
参照コード	コスト	初期	1年目	2年目	3年目	合計	現在価値
Ftr	サブスクリプション費用	\$0	\$7,776,000	\$7,776,000	\$7,776,000	\$23,328,000	\$19,337,761
Gtr	社内人件費および移行コスト	\$6,382,500	\$1,610,000	\$1,610,000	\$1,610,000	\$11,212,500	\$10,386,332
	総コスト（リスク調整後）	\$6,382,500	\$9,386,000	\$9,386,000	\$9,386,000	\$34,540,500	\$29,724,093

サブスクリプション費用

エビデンスとデータ インタビュー参加者の組織は、Workspace の利用に対して Google に年間サブスクリプション料金を支払っており、その料金には Gemini と NotebookLM が追加費用なしで含まれていました。これらの費用は組織ごとに異なり、ユーザー数や顧客固有の価格設定によって決まっていました。

モデル化と前提条件 インタビューを基にForresterが想定したモデル組織の前提は以下の通りです。

- モデル組織は、Workspace のサブスクリプションに年間 6,480,000 ドルを支払います。
- 全従業員が Workspace のアカウントを持ちます。
- 料金は変動する場合があります。詳しくは Google までお問い合わせください。

リスク サブスクリプション費用は、以下の要因によって変動します。

- ユーザー数
- Google との既存の取引関係および契約
- 顧客別の価格設定および各種割引

結果 これらのリスクを反映させるため、Forrester はこのコストを 20% 上方調整し、3 年間のリスク調整後の合計現在価値（割引率 10%）を 1,930 万ドルとしました。

サブスクリプション費用						
参照コード	評価基準	ソース	初期	1年目	2年目	3年目
F1	サブスクリプション費用	インタビュー調査		\$6,480,000	\$6,480,000	\$6,480,000
Ft	サブスクリプション費用	F1		\$6,480,000	\$6,480,000	\$6,480,000
	リスク調整	↓ 20%				
Ftr	サブスクリプション費用（リスク調整後）		\$0	\$7,776,000	\$7,776,000	\$7,776,000
3年間合計：\$23,328,000				3年間の現在価値：\$19,337,761		

社内人件費および移行コスト

エビデンスとデータ インタビュー参加者の所属企業では、従業員の一部が Google Workspace の導入に専念していました。その後、このチームの一部がプラットフォームの継続的な運用管理を担当しました。より広い視点では、従業員は当初、Google

Google Workspace の TOTAL ECONOMIC IMPACT™（総経済効果）

Workspace の習得と操作に慣れるために時間を費やし、その後も Workspace の AI 機能の範囲や新機能について理解を深めるために時間を割いたとインタビュー参加者はいいます。

- 導入の進め方はインタビュー参加者の企業ごとに異なりましたが、通常は数か月の期間で完了していました。インタビュー参加者は、移行作業が大きな労力を伴うものだったと述べていますが、Google チームから多大なサポートを受けたことも指摘しています。
- インタビュー参加者は、Google Workspace をユーザーフレンドリーであると評価する一方で、従業員がプラットフォームに完全に慣れるための時間を要したことも言及しています。また、各組織では継続的なトレーニングや支援ツールを提供しており、特に Google Workspace の AI 機能に関連する内容に重点が置かれていました。金融サービス企業のデジタルエクスペリエンス担当副社長は次のように述べています。「当社は多くの教育プログラムやトレーニングを受けることができ、プロンプトライブラリも用意しています。グループ横断的なコンテストも実施しています」

モデル化と前提条件 インタビューを基にForresterが想定したモデル組織の前提は以下の通りです。

- 6 か月間で 12 名のフルタイム従業員（FTE）が Google Workspace の導入および移行に専念しました。
- その後、4 名のフルタイム従業員（FTE）が Google Workspace の継続的な運用管理に専念しています。
- Google Workspace の導入および継続的な運用管理に専念する従業員の全経費込の平均給与は年間 125,000 ドルです。
- Google Workspace のユーザー数は 20,000 人。これらのユーザーは平均して、Google Workspace の操作に慣れるために 4 時間、さらに Workspace の AI 機能に習熟するために追加で 4 時間を費やします。その後、ユーザーは新しい AI 機能を学ぶために、年間平均 1.5 時間を費やします。
- 全従業員の全経費込の時給は 30 ドル。

リスク 内部人件費と移行のコストは次の要因に基づいて変動します。

- 企業規模
- 導入の範囲
- 従業員のスキルセットおよび給与

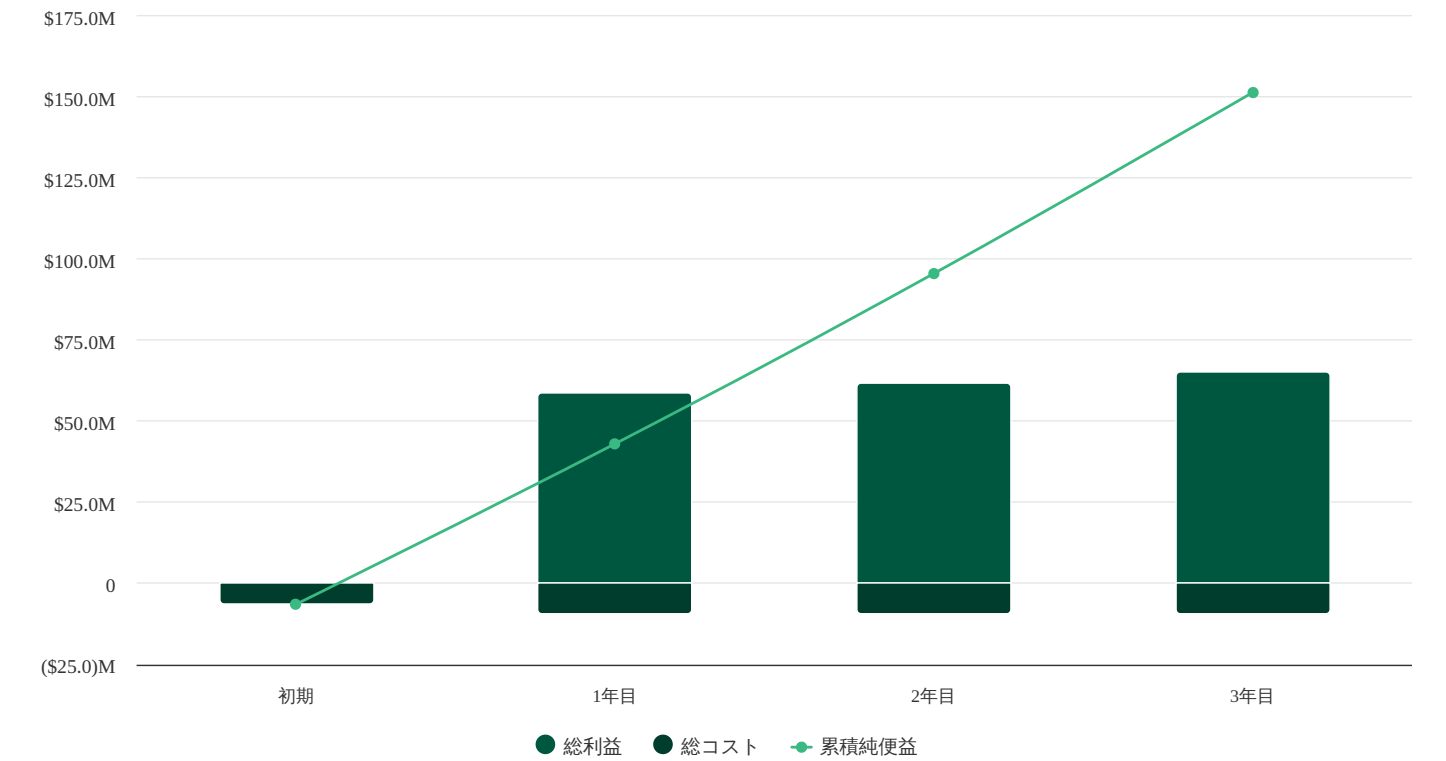
結果 これらのリスクを反映させるため、Forrester はこのコストを 15% 上方修正し、3 年間のリスク調整後の合計現在価値（割引率 10%）を 110 万ドルとしました。

Google Workspace の TOTAL ECONOMIC IMPACT™（総経済効果）

社内人件費および移行コスト						
参照コード	評価基準	ソース	初期	1年目	2年目	3年目
G1	導入、移行、および継続的な管理に専念する FTE	インタビュー調査	12	4	4	4
G2	導入および継続的管理に専任のFTEの総合年俸	モデル組織	\$125,000	\$125,000	\$125,000	\$125,000
G3	導入期間（月）	インタビュー調査	6			
G4	Workspace ユーザー	モデル組織	20,000人	20,000人	20,000人	20,000人
G5	Workspace の習熟および操作習得にユーザーが費やす平均時間	インタビュー調査	4.0			
G6	新しい AI 機能の習熟および操作習得にユーザーが費やす平均時間	インタビュー調査	4.0	1.5	1.5	1.5
G7	ユーザー 1 人の全経費込時給	モデル組織	\$30	\$30	\$30	\$30
Gt	社内人件費および移行コスト	初期：((G1×G2×G3)/12) + (G4×(G5+G6)×G7) Y1～Y3：(G1×G2) + (G4×G6×G7)	\$5,550,000	\$1,400,000	\$1,400,000	\$1,400,000
	リスク調整	↑ 15%				
Gtr	社内人件費および移行コスト（リスク調整後）		\$6,382,500	\$1,610,000	\$1,610,000	\$1,610,000
3年間合計：\$11,212,500			3年間の現在価値：\$10,386,332			

財務概要
リスク調整後の3年連結評価

キャッシュフローチャート（リスク調整後）



キャッシュフロー分析（リスク調整後）						
	初期	1年目	2年目	3年目	合計	現在価値
総コスト	(\$6,382,500)	(\$9,386,000)	(\$9,386,000)	(\$9,386,000)	(\$34,540,500)	(\$29,724,093)
総利益	\$0	\$58,755,780	\$61,798,030	\$65,111,405	\$185,665,215	\$153,406,260
純利益	(\$6,382,500)	\$49,369,780	\$52,412,030	\$55,725,405	\$151,124,715	\$123,682,167
投資収益率（ROI）						416%
投資回収期間						6か月未満

注意

「利益」と「コスト」セクションで計算された財務的な結果を使用することで、このモデル組織の投資に対する ROI、NPV および回収期間を算出できます。Forrester は、本分析において年間 10% の割引率を想定しています。

リスク調整後のこれらの ROI・NPV・回収期間の値は、「利益」と「コスト」の各セクションの未調整結果にリスク調整の要因を加味して算出しています。

初期投資欄には、「時間 0」または 1 年目開始時に発生し、割引が適用されない費用が含まれます。その他すべてのキャッシュフローは、年末時点の割引率を使用して割引されます。現在価値（PV）は、それぞれの総コストと利益の見積りに対して計算されます。概要表にある NPV の算出値は、初期投資と各年の割引率適用後のキャッシュフローの合計になります。総利益、総コスト、キャッシュフローの各表における合計と現在価値の計算は、四捨五入の関係上、正確には一致しない場合があります。

TEI のフレームワークと調査手法

インタビューで得られた情報を基に、Forrester は Workspace の導入を検討中の組織のために、Total Economic Impact™（TEI）フレームワークを構築しました。

このフレームワークの目的は、投資の意思決定に影響を与えるコスト・利益・柔軟性・リスクの要因を明確にすることです。Forrester は、Workspace が組織にもたらし得る影響を、多段階アプローチを使用して評価しました。

デューデリジェンス（適正評価）

Workspace に関連するデータを収集するために、Google の利害関係者および Forrester のアナリストにインタビュー調査を行いました。

インタビュー調査

Google Workspace を利用している 5 つの組織のうち 6 名の意思決定者にインタビューを行い、コスト、利益、リスクに関するデータを取得しました。

モデル組織

インタビュー対象企業の特性をもとに、モデル組織を設計しました。

財務モデルのフレームワーク

TEI 手法を用いてインタビュー結果を反映した財務モデルを構築し、インタビュー参加者の課題や懸念に基づいてリスク調整を行いました。

ケーススタディ

TEI の 4 つの基本要素である利益・コスト・柔軟性・リスクを用いて、投資がもたらす影響をモデル化しました。IT 投資に関する ROI 分析が高度化する中、Forrester の TEI 手法は、購入判断における総経済効果を包括的に示します。TEI 手法の詳細については、[付録 A](#) をご参照ください。

用語集

Total Economic Impactアプローチ

利益

利益は、ソリューションがビジネスにもたらす価値を表します。TEI 手法では、利益の算定と費用の算定に均等の重みを置き、ソリューションが組織全体に与える影響を細部にわたって検証することを可能にします。

コスト

コストとは、ソリューションが提案する価値やメリットを実現するために必要なすべての費用を指します。本手法では、導入時および継続運用にかかるコストを捉えます。

柔軟性

柔軟性とは、すでに行われた初期投資を基盤として、将来の追加投資によって得られる戦略的価値を示す。その利益を把握できる場合、PV を推定することができます。

リスク

リスクは、利益およびコスト見積もりの不確実性を以下に基づいて測定する：1) 見積もりが当初の予測に達する可能性、2) 見積もりが時間の経過とともに追跡される可能性。TEI のリスク要因は、「三角分布」に基づいています。

金融用語

現在価値（PV）

特定の利率（割引率）を使用した（割引後の）コストと利益の推定値の現在価値コストと利益の PV は、キャッシュフローの総 NPV に組み入れられます。

正味現在価値（NPV）

特定の利率（割引率）を使用した（割引後の）将来の正味キャッシュフローの現在価値プロジェクトの NPV が正である場合、他のプロジェクトの NPV がより高くない限り、投資を実施すべきであることを示します。

投資対効果（ROI）

プロジェクトの予想収益率（%）ROI は、純利益（粗利益からコストを引いた値）をコストで割ることによって求められます。

割引率

金銭の時間的価値を反映させるために、キャッシュフロー分析で使われる利率一般的に、組織では 8%～16% の割引率が用いられます。

投資回収期間

投資の損益分岐点純利益（利益からコストを引いた値）が初期投資額またはコストと等しくなる時点を指します。

付録

付録 A

Total Economic Impact（総経済効果）

Total Economic Impact（TEI）は、Forrester Research によって開発された手法であり、企業のテクノロジーに関する意思決定プロセスを強化し、ソリューションプロバイダーが顧客に対して自社の価値提案を効果的に伝えることを支援します。TEI 手法は、企業が経営層や主要な利害関係者に対し、ビジネスおよびテクノロジー施策の具体的な価値を実証・正当化・実現することを可能にします。

付録 B

脚注

¹ 出典： 予測 2026：働き方の未来、Forrester Research, Inc.、2025 年 10 月 21 日 AI 対応型カルチャーの即時構築、Forrester Research, Inc.、2026 年 1 月 2 日

² Total Economic Impact（TEI）は、Forrester Research によって開発された手法であり、企業のテクノロジーに関する意思決定プロセスを強化し、ソリューションプロバイダーが顧客に対して自社の価値提案を効果的に伝えることを支援します。TEI 手法は、企業が経営層や主要な利害関係者に対し、ビジネスおよびテクノロジー施策の具体的な価値を実証・正当化・実現することを可能にします。

開示事項

以下の点にご留意ください。

本調査は Google の依頼により、Forrester Consulting が実施しました。本調査は競合分析として使用することを目的としたものではありません。

Forrester は、他の組織が得られる可能性のある ROI についていかなる推定も行っていません。Workspace への投資の妥当性を判断する際には、本調査で提供されているフレームワークに読者自身の予測を適用することを強く推奨します。

Google は調査内容を確認し、Forrester にフィードバックを提供しましたが、調査とその結果に対する編集権は Forrester が保持しており、Forrester の調査結果と矛盾したり、調査の意味を不明瞭にしたりするような調査の変更は受け入れません。

Google は、インタビュー調査を行う顧客企業名を提供していますが、インタビュー調査には参加していません。

コンサルティングチーム：

Matthew Carr

発行日

2026 年 2 月